

# ニュース JAFIC EYE №178

## 10 月におけるサンマの漁況経過

### 1. 2020 年 10 月の漁況の経過

今年 10 月のサンマ棒受網漁業における生鮮サンマ水揚量は 11,590 トンであった（表 1）。9 月と比べると水揚量は増加したが、昨年同期の 72%であった。平均価格は 534 円/kg で、9 月と比べると下がったものの、前年同期の約 1.6 倍となった。

表 1. 10 月の生鮮サンマ水揚量と平均価格

|     | 2019 年 |          | 2020 年 |          | 前年比  |      |
|-----|--------|----------|--------|----------|------|------|
|     | 数量(トン) | 価格(kg/円) | 数量(トン) | 価格(kg/円) | 数量   | 価格   |
| 10月 | 16,005 | 345      | 11,590 | 534      | 0.72 | 1.55 |

（出典：おさかなひろば）

全国さんま棒受網漁業協同組合が発表した 10 月末の累積水揚量は、今年は 12,913 トンであり、前年（20,299 トン）の 64%であった。累積水揚量は、過去最低であった前年を下回っており、引き続き厳しい状況が続いている。

10 月上旬の主漁場は、花咲東北東～東南東沖の花咲港から 1 日～1 日半かかる場所（漁場水温 14～15℃台）（図 1）には示していない）と花咲南東 200 海里（漁場水温 14～15℃台）であった（図 1）。漁場は徐々に西南西の方向へ移動し、漁獲量も徐々に増加した。漁獲物は、体長 29～30cm 台、体重 110～130g 台が主体であり、9 月よりも太った個体が多かった。

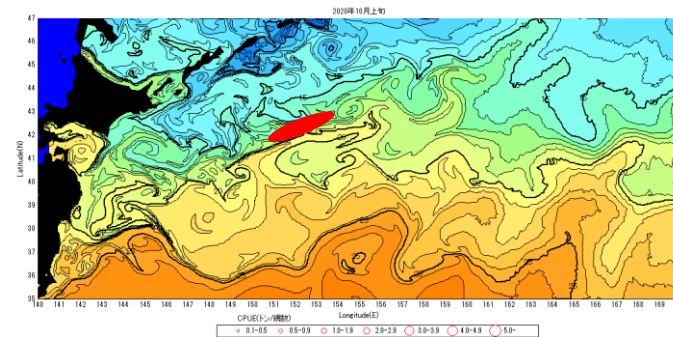


図 1. 今年 10 月上旬のサンマ漁場と海面水温分布

10 月中旬の主漁場は、花咲東南東 250～300 海里（漁場水温 14～16℃）と花咲南南東 200 海里～花咲南 190 海里（漁場水温 16～18℃）であった（図 2）。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、花咲東南東 250～300 海里で 68 トン、花咲南南東 200 海里～花咲南 190 海里で 67 トンであり、10 月上旬よりも増加した。花咲東南東 250～300 海里における漁獲物は、体長 29～30cm 台、体重 110～130g 台が主体であった。また花咲南南東 200 海里～花咲南 190 海里における漁獲物は、体長 26～27cm 台と 29～30cm 台、体重 60～70g 台と 100～120g 台が主体であり、こちらの漁場の方が体重 60～70g 台の混じりが多かった。

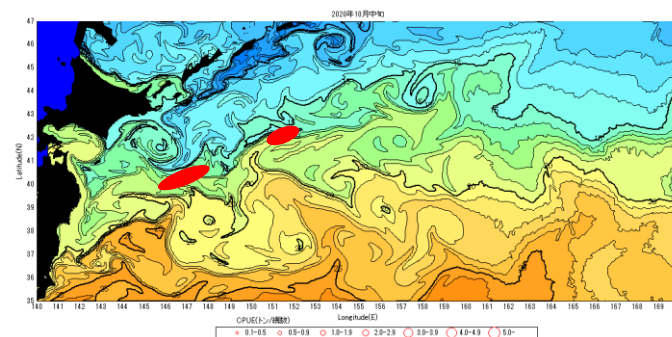


図 2. 今年 10 月中旬のサンマ漁場と海面水温分布

10 月下旬の主漁場は、花咲東南東 250～310 海里（漁場水温 13～16℃台）と花咲南南東～南沖の 190～250 海里（久慈東～釜石東沖の 190～300 海里）（漁場水温 13～18℃）であった（図 3）。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、花咲東南東 250～310 海里で 65 トン、花咲南南東～南沖の 190～250 海里（久慈東～釜石東沖の 190～300 海里）で 64 トンであった。

花咲東南東 250～310 海里における漁獲物は、体長 29～30cm 台、体重 100～130g 台が主体であった。花咲南南東～南沖の 190～250 海里（久慈東～釜石東沖の 190～300 海里）における漁獲物は、体長 26～27cm 台と 29～30cm 台、体重 60～70g 台と 100～120g 台が主体であった。

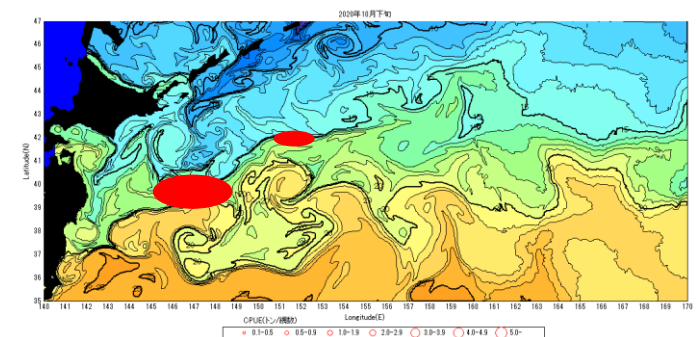


図 3. 今年 10 月下旬のサンマ漁場と海面水温分布

### 2. 前年の漁獲物との比較

今年 10 月 10 日夜の漁獲物は、体長 29～30cm 台、体重 110～130g 台が主体であった（図 4）。前年 10 月 10 日夜の漁獲物も今年と同様であり、体長 29～30cm 台、体重 110～130g 台が主体であった（図 5）。10 月 10 日夜の漁獲物について、体長と体重の関係を見ると、今年は前年とほぼ同じであり、太り具合は前年とほぼ同じであった（図 6）。

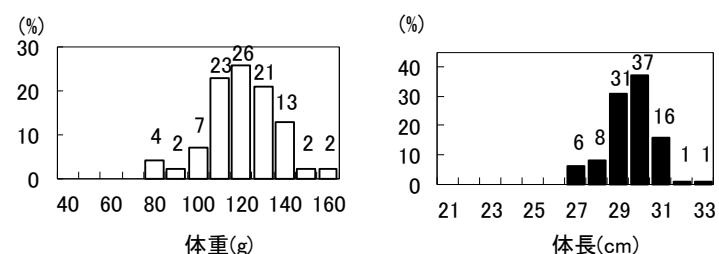


図 4. 今年 10 月前半のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図) 2020 年 10 月 10 日夜操業 12 日花咲水揚 図中の数値は頻度(%、以下同様)

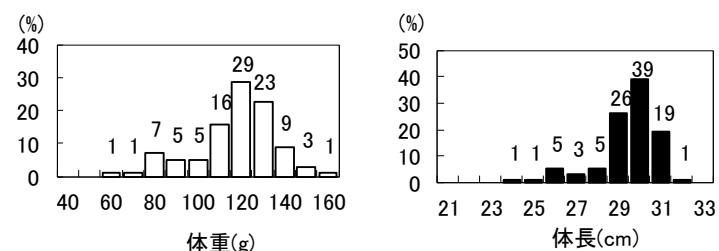


図 5. 前年 10 月前半のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図) 2019 年 10 月 10 日夜操業 12 日花咲水揚

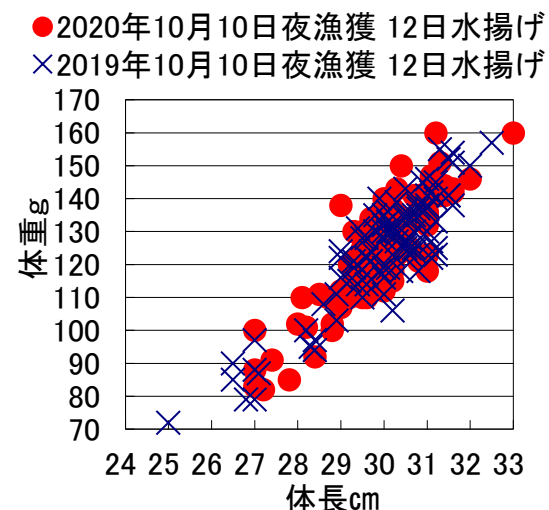


図 6. 今年と前年 10 月前半のサンマ体長と体重の関係  
今年前年ともに 10 月 10 日夜操業 12 日花咲水揚

今年 10 月 26 日夜の漁獲物は、体長 26～30cm 台、体重 70～80g 台と 100～120g 台が主体であった(図 7)。前年 10 月 27 日夜の漁獲物は、体長 26～30cm 台、体重 8～100g 台と 130g 台が主体であった(図 8)。今年と前年について、体長と体重の関係を見ると、今年の 10 月後半の漁獲物は、前年よりも痩せていた(図 9)。このように、10 月前半は前年同様の太り具合であったが、10 月後半になり、前年よりも痩せた個体が多くなった。

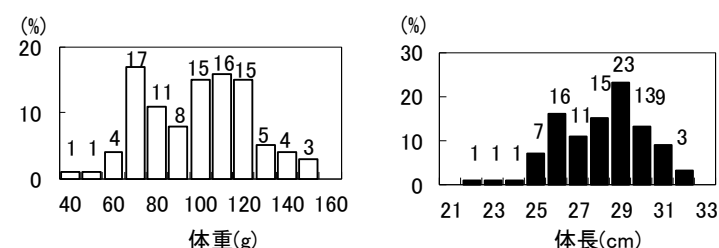


図 7. 今年 10 月後半のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図) 2020 年 10 月 26 日夜操業 28 日花咲水揚 図中の数値は頻度(%、以下同様)

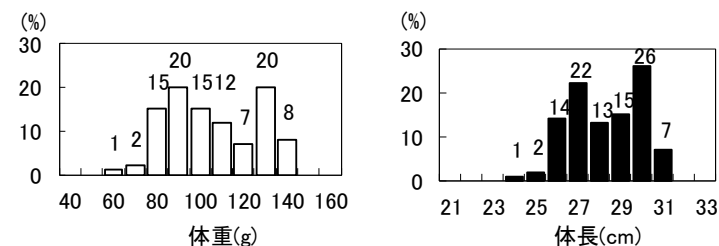


図 8. 前年 10 月後半のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図) 2019 年 10 月 27 日夜操業 28 日花咲水揚

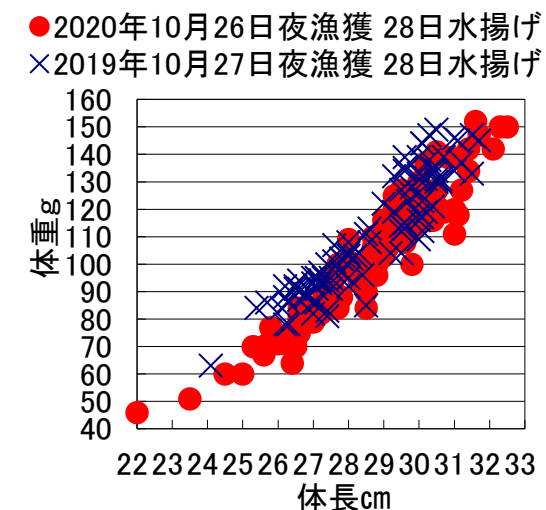


図 9. 今年と前年 10 月後半のサンマ体長と体重の関係  
今年 10 月 26 日夜操業 28 日花咲水揚  
前年 10 月 27 日夜操業 28 日花咲水揚

### 3. 現状分析と今後の見通し

南下群の出現により、漁獲量は 9 月よりも増加した。また漁場も南西方向へ移動し、さらに前年よりも漁場の移動は早く、花咲南南東～南沖の 190～250 海里も漁場となった。この漁場は久慈東～釜石東沖の 190～300 海里であり、三陸へ水揚げする船も多くなった。一方、前年 10 月は道東沿岸にも一時的に漁場が形成されたが、今年の 10 月は道東沿岸に漁場は形成されなかった。今年は、沖合から西へと移動した魚群が、道東沿岸には近寄らず、道東の沖合を西へと移動している。

花咲南南東～南沖の 190～250 海里の漁場の西側には、道東沖暖水塊に向かって北上する暖水があり、三陸沿岸に魚群が近づけない状況である。またこの漁場の南側には、黒潮続流から分かれた暖水があり、南にも魚群が下がれない状況である。今後、漁場の西側を北上している暖水の水溫

が下がれば、三陸沿岸へ魚群が来遊する可能性もある。一方、この漁場の南東側の水温が下がってしまうと、沿岸に来遊する魚群は少なくなり、沖合を南下する魚群が多くなる。沿岸に来遊する魚群が多くなれば、水揚量は多くなるが、沖合を南下する魚群が多くなると漁場は港から1日程

度かかる場所となり、水揚量は少なくなってしまう。

9月までの壊滅的な状況に比べ、10月は水揚量がややまとまってきたものの、前年よりも水揚げが少ない状況が続いている。11月に入り、9日には2,191トン、14日には3,308トンとまとまった水揚げもみられるようになった。

三陸海域の海況の変化に注目しつつ、今後の水揚量の伸びに期待したい。

(水産情報部)